

## COVID-19 の流行拡大に伴って、日本人の予防行動はどう変わった？

### 【はじめに】

COVID-19 の感染拡大に伴い、日本では、手洗いやマスク着用などの咳エチケット、ソーシャルディスタンスの確保といった予防行動を国民に求めています。現在、経済活動の再開・人々の移動の活発化に伴い、再び感染者の拡大が見られています。そこで今回は、COVID-19 の感染拡大状況に応じた、日本人の予防行動の変化に着目した論文を紹介し、今後の感染拡大防止に何が大切かを考えたいと思います。

### 【論文の紹介】

ウイルスの広がりを防ぐには、人々の行動変容が鍵となります。筆者らは、COVID-19 の感染拡大の兆候がみられた、2020 年 2 月末時点での日本人の予防行動についてインターネット調査を行い、**ソーシャルディスタンスや目・鼻・口を触らないなどの予防行動の遵守が少ない**ことを報告しています。今回の論文では、COVID-19 のアウトブレイク初期から市中感染へと推移する中で、日本人の予防行動がどのように変化したかを調べました。

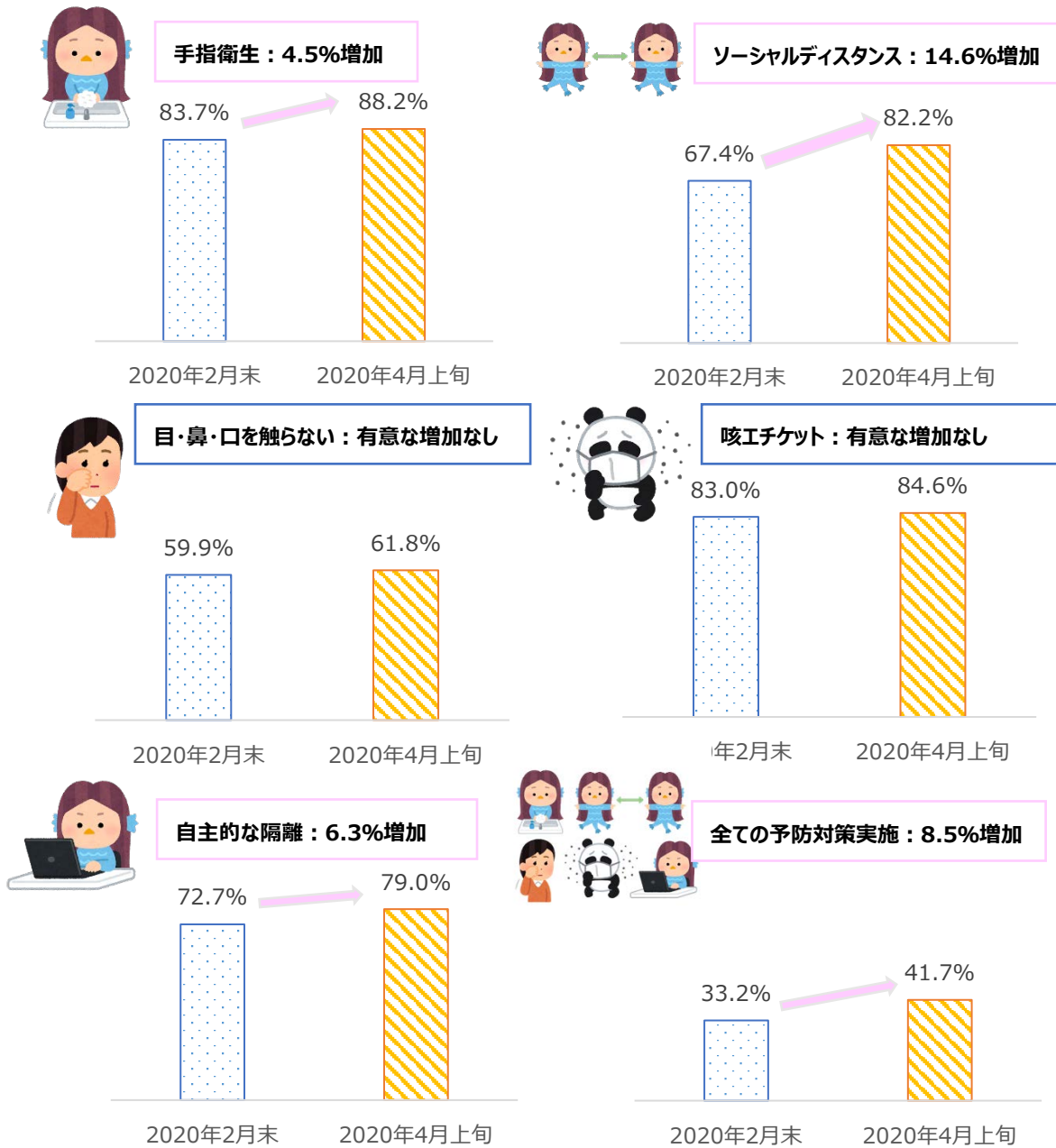
関東 7 都県在住の 20-79 歳の男女 2400 名を対象に、2020 年 2 月 25-27 日、4 月 1-6 日の 2 時点でインターネット調査を実施し、世界保健機関が推奨する 5 つの予防行動について、「手指衛生」「ソーシャルディスタンス」「目・鼻・口を触らない」「咳エチケット」は過去 1 週間の実施頻度、「自主隔離」は「体調不良の場合、仕事を休むことができるか」の質問に基づき、把握を行いました。その結果、2 月末から市中感染がみられた 4 月にかけて、予防行動を実施する人の割合は概ね増加傾向であり、4 月時点で**目・鼻・口を触らない以外の 4 つの予防行動を約 80%の人が実施**していました。更に、**5 つの予防行動すべてを実施**している人の割合が、33.2%から 41.7%へと有意に増加していました。また、男性よりも女性のほうが 5 つの予防行動すべてを多く実施し、世帯収入の低い人よりも高い人のほうがソーシャルディスタンスと自主的な隔離を多く実施していました。

この研究結果から、個人的な行動に関する予防は多くの人に取り組んでいるものの、目・鼻・口は無意識に触ってしまうため、予防をすることの難しさが伺えます。また、世帯収入が低い人ほど、密を避けることや仕事を休むことが難しい可能性があるため、これらの行動変容には、個人の努力だけでは限界があり、就業環境の整備や給与補償といった社会環境の整備が重要だと提言されていました。

### 【おわりに】

日本では、COVID-19 の感染拡大に応じて、手指衛生や咳エチケット、ソーシャルディスタンスなど、個人の努力による行動や、行政が積極的に啓発を行った行動については予防行動を取る傾向にあり、男性や世帯収入が低い人は、女性や世帯収入が高い人よりも予防行動の変化が起こりにくいことがわかりました。感染拡大が再び起こっている現在、個人の努力に基づく予防行動の啓発は継続しつつ、あらゆる人が安心して在宅勤務・休業などができる環境作りをしていくことが、今後の感染拡大の収束には重要だと考えます。

## COVID-19 の感染段階における、日本人の予防行動の変化



4月上旬の時点で約80%の人が、目・鼻・口を触らない、以外の予防行動をとっていた  
 手指衛生、ソーシャルディスタンス、自主的な隔離、全ての予防対策を実施する人が増加  
 ⇒感染拡大に応じて、予防行動に変化があった

【紹介した論文】Machida M, Nakamura I, Saito R, et al. Changes in implementation of personal protective measures by ordinary Japanese citizens: A longitudinal study from the early phase to the community transmission phase of the COVID-19 outbreak. International Journal of Infectious Diseases 96:371-375, 2020 DOI:https://doi.org/10.1016/j.ijid.2020.05.039

文責：大阪医科大学研究支援センター医療統計室 片岡 葵 監修：大阪医科大学研究支援センター医療統計室 伊藤 ゆり